

AOMORI政治塾 第2～4講座

10月24日(土)、AOMORI政治塾第2講座に出席しました。前半は津島淳衆議院議員による「国土強靱化計画」、後半は活動家横浜慎一氏による「地方議員がつなぐ遺骨収集と友好」という内容でした。

前半に説明を受けた国土強靱化年次計画は、2014年から策定されたもので、今年で7回目の計画であり、昨年の災害等を踏まえた対策や災害時における新型コロナウイルス感染症への対応を反映させた年次計画2020の主要施策や3か年緊急対策の進捗についての説明を受けました。

後半の講師：横浜慎一氏は、サイクリングを通して青森県を盛り上げようと活動している方で、アウトドアスポーツショップを経営する傍ら、一般社団法人日本観光文化協会観光プランナーや十和田山岳振興協議会理事等を務めるほか、パラオ戦史研究会では、元第14師団ペリリュー島戦車隊の会青森分会事務局をしている経験からのお話でした。

今回もしっかりと勉強させていただきました。



11月28日(土)、AOMORI政治塾第3講座が開催されましたが、PTA行事と重なり、後日自民党事務局の特別な配慮をいただき録画中継にて受講いたしました。今回の講座はRABアナウンサー桑子英里さんによる「話し方・聞き方の基礎」でありました。自分としては、苦手意識のある講座であることから強く要望して受講いたしましたので、今回学んだ内容を今後活かせるよう頑張ります。

12月19日(土)、AOMORI政治塾第4講座を受講しました。今回の講師は、観光カリスマの角田周さん。角田さんは、津軽地吹雪体験や津軽鉄道ストーブ列車の仕掛け人であり、青森県観光の第一人者であり、『青森県の観光について』熱弁していただきました。コロナ禍の影響により、これからの観光は変わらなければならない。当町の観光も、観光資源を活かしきれていません。「観光」は、平内町の課題です。



平内町
議会議員

田中だい通信

さらに前進！明日に取り組む！未来を創る！

土屋バイパス吹雪対策

昨冬、国交省に働きかけ土屋バイパス吹雪対策として、蛍光旗を設置していただきました。しかしながら、暖冬・小雪の影響があったものの、蛍光旗の効果には不安がありましたので、今冬を迎えるにあたり、再度、国交省に吹雪対策をお願いしたところでありました。

今冬は、蛍光旗の設置数を昨冬の倍以上に増やし、固定方法も工夫していただきましたので、大雪が続いている冬期間における吹雪時の蛍光旗効果について皆様の御意見をお聞かせください。



総務福祉常任委員会所管事務調査報告書

日時：令和2年10月21日(水)10時00分～ 場所：平内町役場3階会議室
内容：福祉行政について（新型コロナウイルス対策関係）

1. コロナにより生活環境が激変した人への福祉対策

- ①生活保護の申請 ②介護保険料の減免 ③緊急小口資金
- ④コロナの影響により、収入の減少や失業等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難となっている世帯への貸付

2. 児童福祉について

未曾有の新型コロナウイルス感染症が拡大する中、様々な対策があることを改めて認識することができました。ただ、こうした救済策を知らない町民の方が多数いるのではないかと疑問を持ちました。常々、一般質問でもお願いしておりますが、情報は皆で共有してこそ、その効果が最大限に発揮されます。行政には今後も継続的な情報発信をお願いするとともに、議員としてSNSが発達した現在、国や県・各自治体からの情報を待つだけでなく、独創的な取組を積極的に検索し、町独自の支援策を行政に要請できるよう、しっかり勉強を続けて参ります。



町政へのアイデア、ご提案、ご要望募集中！
皆様から頂いたお声は、議会で質疑したり担当課に直接要望したり、責任をもって町へ届けます！

電話 017-763-0170 FAX 017-755-4295 携帯 090-3125-8752

メール tanakada_0525@yahoo.co.jp

※この新聞は後援会討議資料です

令和二年第四回議会定例会一般質問

「町民生活や観光に関する要望」

田中大

町民に粗大ごみ運搬車両貸出を

粗大ごみとは家庭から排出される、家具や自転車、布団などの大きなものや、60cmを超える家電製品などの町指定ごみ袋に収まらない廃棄物であります。

町民にとっては、年2回の収集以外は、外の沢埋立地に直接搬入するか、各家庭の敷地内にストックしておく事となります。多くの町民は、搬入するための車両がないため、敷地内でのストックになるだろうと思います。

現実には搬入するトラックや軽トラックを所有しない家庭がほとんどであり、「搬入したいが、軽トラックを持っていない。搬入することができれば、効率的なごみ処理ができると思うのだが。」との声を多数耳にいたします。

愛知県知立市では、粗大ごみを運搬するための軽トラックを無料で貸し出ししており、愛知県内を中心に全国の各自治体では、粗大ごみ運搬車両貸出制度を施行しております。

町民の利便性向上のため、町で粗大ごみ運搬車両貸出用の軽トラックを配置することは可能でしょうか。

町 長

当町における粗大ごみの排出量は、平成29年度で150トン、平成30年度で195トンとなっており、令和元年度は未確定だが、同じく195トンの見込みとなっています。

粗大ごみは春と秋の年2回実施している行政回収以外は、直接、外の沢埋立地へ搬入する形となっています。自家用自動車等での直接搬入ができない町民においては有効な運用方法の一つではないかと考えるが、現状ではそのような場合の粗大ごみの運搬方法は、収集運搬許可業者へ有料で依頼して外の沢埋立地へ搬入してもらうことになっているが、実績としてはごくわずかとなっています。

したがって、今後、町民の需要等がさらに高まった段階で検討いたします。



田中大

夜越山オートキャンプ場冬季開設を

現在は、冬のキャンプが注目されています。冬キャンプの魅力は、星空です。冬は空気が澄んでいて他の季節に比べて星空がより一層綺麗に見えます。また、虫と遭遇しないのも魅力の一つです。

10月に新郷村で開催されたアウトドアイベントを視察いたしました。イベント主催者よりお話を伺ったところ、「冬キャンプできるオートキャンプ場は増えてきた。道路の除雪がなされ、仮設トイレがあれば冬キャンプは可能だ。」とのことでした。

夜越山オートキャンプ場は、11月から4月までクローズ時期であります。しかし、隣接するスキー場へのアクセス確保のため、積雪時は毎日道路の除雪がされています。スキー場駐車場からオートキャンプ場までは、距離もそれほど離れていないので、比較的簡単にキャンプ場までのアクセス道路の除雪も可能なのではないのでしょうか。

そこで、夜越山森林公園における通年での観光客増を目的として1年を通してのオートキャンプ場開設は可能でしょうか。

町 長

当町のオートキャンプ場は、5年間の平均利用者は増えています。アウトドアブームによるキャンプ人口の増加に加え、新型コロナウイルス感染症の流行が追い風となっているようであります。

今のところ、利用者から冬期間の開放の要望はないし、オートキャンプ場のゲートが狭く、大型除雪車も入らないこと、キャンプサイトの場所が吹きだまり、キャンプ地の確保が難しいことから、現状では冬キャンプへの開放は難しいと考えられます。

今後のお客様の意見を見極め、受け入れるための態勢についても検討する次第です。

冬期間のキャンプ受け入れを



10月17日（土）、恩師からのお誘いがあり新郷村間木ノ平グリーンパークで開催されているアウトドアイベントの視察に出かけて参りました。

関係者からお話を伺っているなかで「冬に雪の上でキャンプをする」のが魅力的で、全国的にも流行しつつあるとの事でした。雪上キャンプの醍醐味は様々ありますが、中でも冷え切って澄ん

だ空気の中での朝の清々しさと夜空に浮かぶ星空を眺めるのが最高とのことでした。夜越山オートキャンプ場は11月～4月がクローズ時期ですが、直ぐそばにスキー場もあり、アクティビティも楽しめることから、夜越山森林公園における通年での観光客増を目的に1年を通してキャンプを行えるよう提案してみます。